

參考資料

気象庁の1週間から数か月先の情報と予測資料の詳細

週間天気予報

東京都の天気予報（7日先まで）									
2021年07月30日11時 気象庁 発表									
日付	今日 30日(金)	明日 31日(土)	明後日 01日(日)	02日(月)	03日(火)	04日(水)	05日(木)	06日(金)	
東京地方	曇 	晴時々曇 	曇時々晴 	曇 	曇 	曇時々晴 	曇時々晴 	曇時々晴 	
降水確率(%)	-/-/40/40	20/10/30/20	30	40	40	30	30	30	
信頼度	-	-	-	B	C	B	B	A	
東京 気温 (℃)	最高	30	32	34 (32~35)	33 (30~34)	31 (28~34)	32 (29~35)	33 (30~35)	34 (30~37)
	最低	-	24	24 (23~26)	25 (24~26)	25 (23~26)	25 (23~27)	24 (22~26)	25 (23~26)
向こう一週間（明日から7日先まで）の平年値									
				降水量の7日間合計		最低気温		最高気温	
東京				平年並 4 - 25mm		23.9℃		31.8℃	

<内容>

原則として府県予報区ごとの

明日から7日先までの天気、降水確率、最高気温、最低気温、気温の予測範囲、信頼度の予報
予報4日目の最高・最低気温の平年値と7日間合計降水量の平年並の範囲も提供

早期注意情報（警報級の可能性）

5日先までの早期注意情報（警報級の可能性）

2日先～5日先までは
週間天気予報と
合わせて発表

〇〇県南部の早期注意情報（警報級の可能性）

南部では、4日までの期間内に、暴風、波浪、高潮警報を発表する可能性が高い。
また、4日明け方までの期間内に、大雨警報を発表する可能性がある。

翌日まで
・天気予報と合わせて発表
・時間帯を区切って表示

2日先～5日先まで
・週間天気予報と合わせて発表
・日単位で表示

〇〇県南部 警報級の可能性	3日		4日			5日	6日	7日	8日
	18-24	00-06	06-12	12-18	18-24				
大雨		[中]		—		—	—	[中]	—
暴風		—		[高]		—	[中]	[高]	—
波浪		—		[高]		—	[中]	[高]	—
高潮		—		[高]		—	[中]	[高]	—

[高]: 警報を発表中、又は、警報を発表するような現象発生の可能性が高い状況です。明日までの警報級の可能性が[高]とされているときは、危険度が高まる詳細な時間帯を本ページ上段の気象警報・注意報で確認してください。

[中]: [高]ほど可能性は高くありませんが、命に危険を及ぼすような警報級の現象となりうることを表しています。明日までの警報級の可能性が[中]とされているときは、深夜などの警報発表も想定して心構えを高めてください。

※警戒レベルとの関係

早期注意情報(警報級の可能性)*...【警戒レベル1】

* 大雨、高潮に関して、[高]又は[中]が予想されている場合。

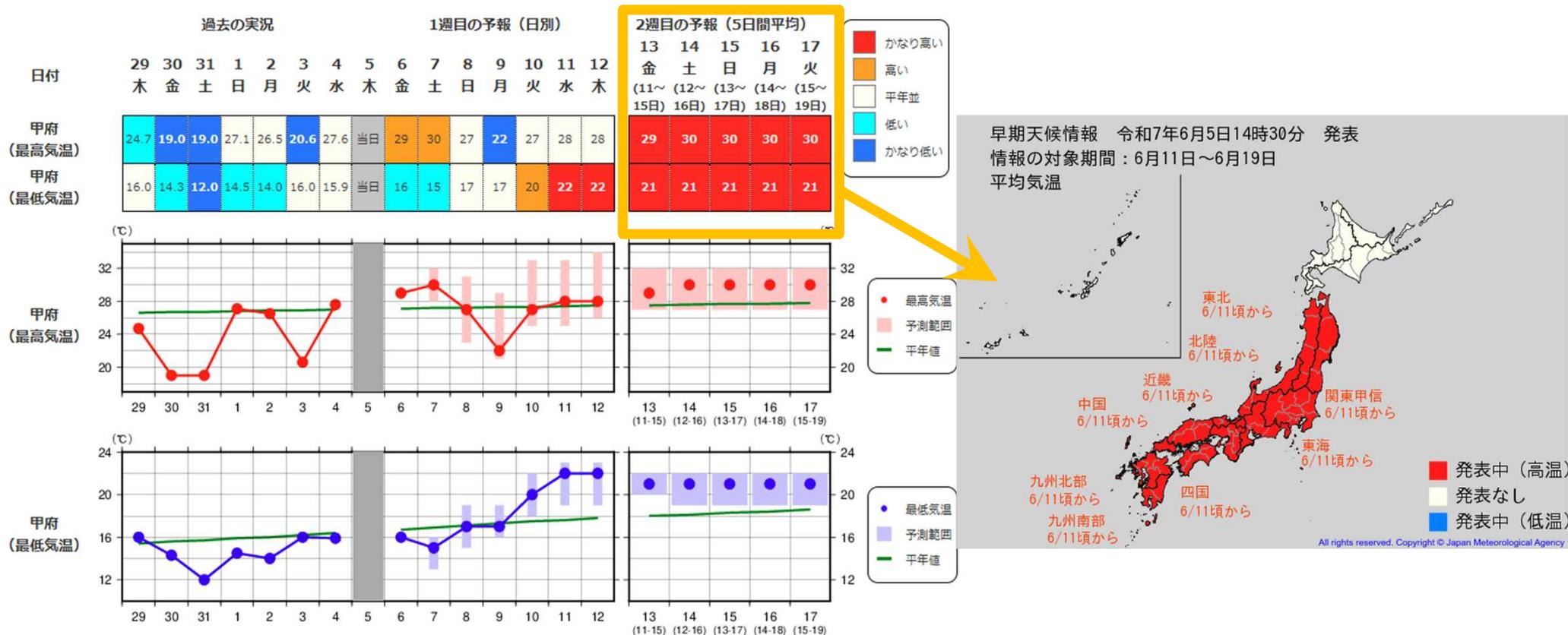
翌日まで

前日の夕方の段階で、必ずしも可能性は高くないものの、夜間～翌日早朝までの間に警報級の大雨となる可能性もあることが分かる！

2日先～5日先まで

数日先の荒天について可能性を把握することができる！

2週間気温予報と 早期天候情報



<2週間気温予報>

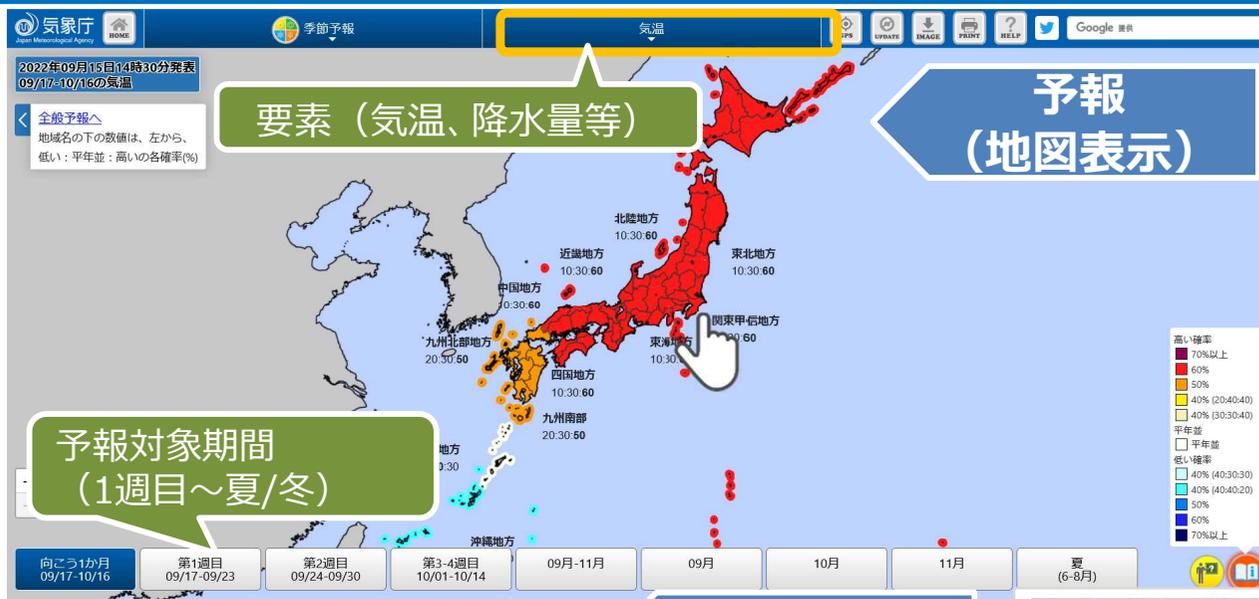
- 8日先から12日先を中心とした各日の5日間平均の最高・最低・平均気温の予報
- ホームページでは、過去1週間と向こう2週間の予報をまとめて、気温の変化を表示

<早期天候情報>

- 気温が平年に比べてかなり高い/低い、または、降雪量が平年に比べてかなり多い可能性がある場合※に発表

※5日間平均気温が「かなり高い」「かなり低い」となる確率が30%以上、または5日間降雪量が「かなり多い」となる確率が30%以上

1か月予報、3か月予報、暖・寒候期予報



<1か月予報>

- 向こう1か月の気温、降水量、日照時間、降雪量の確率
- 週別（1週目、2週目、3～4週目）の気温の確率

<3か月予報、暖・寒候期予報>

- 翌月から向こう3か月、夏（6月～8月）、冬（12月～2月）の気温、降水量、降雪量

予報 (一覧)

1か月予報		3か月予報		1か月予報解説資料		1か月予報参考資料	
2022年09月15日14時30分発表 09/17~10/16の気温							
特に注意を要する事項 本、気温がかなり高くなる見込みです。							
向こう1か月 09/17~10/16	気温	高い確率60%です。	降水量	降水量は、平年並または多い確率ともに40%です。	日照時間	日照時間は、平年並または少ない確率ともに40%です。	
1週目 09/17~09/23	気温	1週目は、高い確率70%です。					
2週目 09/24~09/30	気温	2週目は、高い確率60%です。					
3~4週目 10/01~10/14	気温	3~4週目は、高い確率50%です。					
気温、降水量、日照時間の各階級の確率 (%)							
気温	関東甲信地方	向こう1か月 09/17~10/16	10	30	60		
		1週目 09/17~09/23	10	20			
		2週目 09/24~09/30	10	30	60		
		3~4週目 10/01~10/14	10	30	60		

向こう1か月の天候の見通し 関東甲信地方 (09/17~10/16)

解説資料

予報のポイント

- 暖かい空気が流れ込みやすいため、向こう1か月の気温は高いでしょう。特に、期間の前半は気温がかなり高くなる見込みです。
- 気圧の谷や湿った空気の影響を受けやすい時期があるため、向こう1か月の降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ないでしょう。

1か月の平均気温・降水量・日照時間

	平均気温 (1か月)	降水量 (1か月)	日照時間 (1か月)
関東甲信地方	低10 並30 高60% 高い見込み	少20 並40 多40% 平年並が多い見込み	少40 並40 多20% 平年並が少ない見込み
される出現確率 6)です	平均気温 (1か月) 	降水量 (1か月) 	日照時間 (1か月)

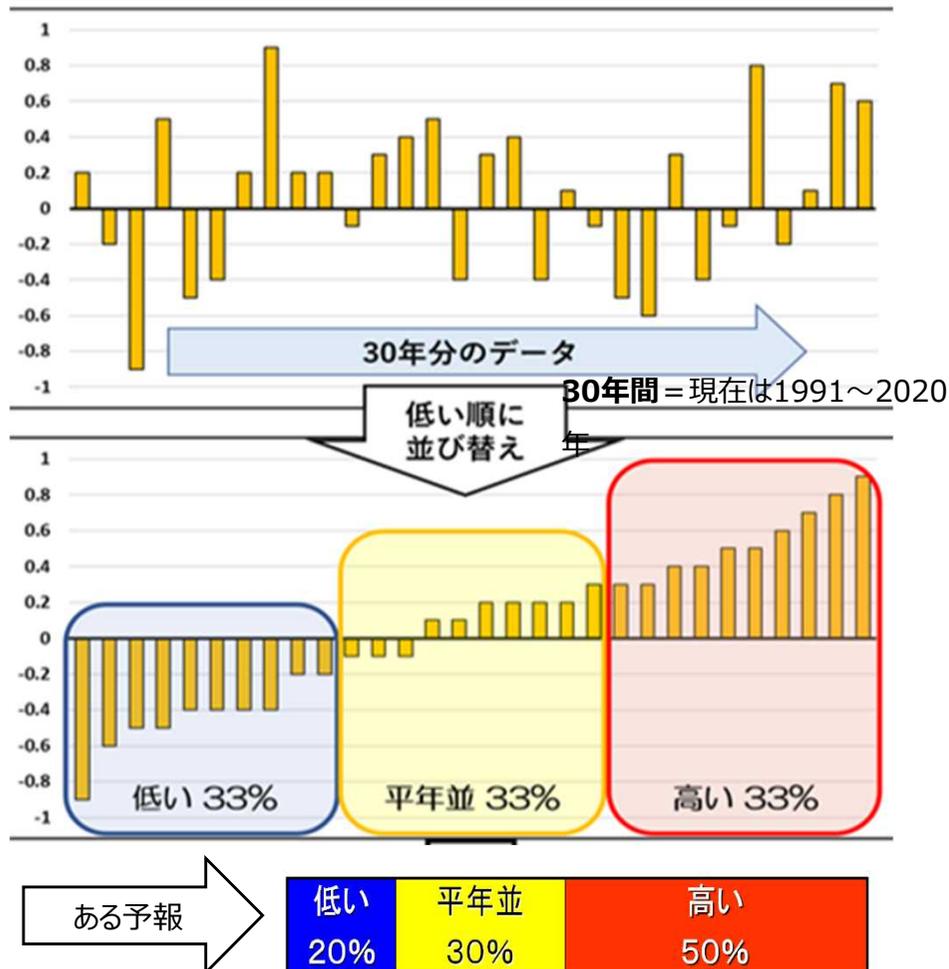
極端な天候や、長雨と日照不足等の継続が見込まれる場合には、**特に注意を要する事項**を予報に記述

例：「気温がかなり高い」「降雪量がかなり多い」
「降水量が多く、日照時間の少ない状態が続く」

1か月予報、3か月予報、暖・寒候期予報の階級と予報区分（地域）

3階級の確率予報

30年間の観測値から求めた平年並の範囲に入る可能性、高い（多い）可能性および低い（少ない）可能性の予報を確率として表現する。



予報区分（地域）

1か月予報、3か月予報、暖候期予報、寒候期予報では、全般季節予報を4地域、地方季節予報を11地域に区分して予報する。



気象庁が提供している1週間から数か月先の予測データの概要

予報の種類	発表日	予報期間			予報する要素 ※1,2	予測データ（形式）		
						数値予報データ （GRIB2）	ガイダンス 確率予測資料 （CSV）	発表予報 （XML）
週間天気予報	毎日2回	1～7日先			気温（最高・最低）、天気、降水確率、信頼度	全球アンサンブル数値予報モデルGPV	地点（アメダス）、予報区	気象庁ホームページでも取得可能
2週間気温予報	毎日	6～14日先			気温	全球アンサンブル数値予報モデル再予報GPV	34地域、151地点（2週間気温予報は155地点）	
早期天候情報	毎週月・木曜日				気温、降雪量			
1か月予報	毎週木曜日	1か月先			気温、降水量、日照時間、降雪量	季節アンサンブル数値予報モデルGPV	1991～2020年まで遡った再予報も公開	
		1週目	2週目	3～4週目	気温		気温の一部は気象庁ホームページで取得可能	
3か月予報	毎月19日～25日の火曜日発表	3か月			気温、降水量、降雪量	季節アンサンブル数値予報モデル再予報GPV	34地域	
		1か月目	2か月目	3か月目	気温、降水量			
暖候期予報	2月19日～25日の火曜日発表	暖候期（6月～8月）			気温、降水量			
		梅雨時期（6月～7月） 沖縄・奄美は5月～6月			降水量			
寒候期予報	9月19日～25日の火曜日発表	寒候期（12月～2月）			気温、降水量、降雪量			

**全て気象業務支援センターから提供。
CSVやXMLの一部データは気象庁ホームページでも提供。**

※1 気温については平均気温、降水量・日照時間・降雪量については期間内の合計降水量・合計日照時間・合計降雪量を予想。

※2 降雪量は日本海側が対象。

1週間から数か月先の情報のための数値予報モデルの概要

数値予報システム (略称)	モデルを用いて発表 する予報	予報領域と格子間隔	予報期間 (メンバー数)	実行回数 (初期値の時刻)
全球モデル (GSM)	週間天気予報	地球全体 約13km	5.5日間	1日2回 (06,18UTC)
			11日間	1日2回 (00,12UTC)
全球アンサンブル予報システム (GEPS)	週間天気予報 早期天候情報 2週間気温予報	地球全体 18日先まで 約27km	5.5日間 ※1 (51メンバー)	1日2回 (06,18UTC)
			11日間 (51メンバー)	1日2回 (00,12UTC)
			18日間 (51メンバー)	1日1回 (12UTC)
季節アンサンブル予報システム (季節EPS)	1か月予報 3か月予報 暖候期予報 寒候期予報 エルニーニョ監視速報	地球全体 大気 約55km 海洋 約25km	7か月 (5メンバー) ※2	1日1回 (00UTC)

※1 GEPSは、00,06,12,18UTC初期値の1日4回実行されるが、06,18UTC初期値時刻の予測は、全般海上予報区（赤道～北緯60度、東経100～180度）内に台風が存在する、または同区内で24時間以内に台風になると予想される熱帯低気圧が存在する場合に配信される。

※2 毎週火・水初期日のみ1か月先まで25メンバー

季節アンサンブル予報システムの更新概要（令和8年1月）

	更新前 (作成元システム/予報時間/初期時刻/メンバー数)		更新後 (作成元システム/予報時間/初期時刻/メンバー数)	
週間GPV	全球アンサンブル予報システム (GEPS)	予報時間：0～11日 初期時刻：00,12UTC メンバー数：51メンバー	現在と同じ	現在と同じ
2週間GPV		予報時間：11～18日 初期時刻：12UTC メンバー数：51メンバー		現在と同じ
1か月GPV		予報時間： 18～34日 初期時刻： 12UTC （火・水曜） メンバー数：25メンバー 火・水曜合わせて50メンバー	季節アンサンブル予報システム (CPS4)	予報時間： 0～34日 初期時刻： 00UTC （火・水曜） メンバー数：25メンバー 火・水曜合わせて50メンバー
6か月GPV	季節アンサンブル予報システム (CPS3)	予報時間：0～7か月 初期時刻：00UTC メンバー数：5メンバー 統計には最新17初期時刻合わせて 51メンバー 利用		予報時間：0～7か月 初期時刻：00UTC メンバー数：5メンバー 統計には最新17初期時刻合わせて 85メンバー 利用

これまでのニーズ調査から（主な結果一覧）

これまでのニーズ調査から 主な結果一覧

要素	2,3日前	週間	2週間先	1か月先	半年～3か月先	
気温	建設：現場作業組み換えの参考（コンクリート打設等）				建設：工事計画	
	家電小売：配送・設置作業への注意喚起		家電小売：人員シフト、在庫量・店舗レイアウト調整等		飲料製造：生産計画への参考（3か月目）	
	救急：増隊の可能性の予告			飲料製造：輸送・配送、店頭調整		
	農業：防除作業（農薬準備、ヘリ・ドローン手配等）				保険金融：商品設計への参考	
	農業：生育予測モデル（開花予測、刈り取り適期予測、害虫防除適期予測等）、農産物輸送手配				農業：国の備蓄計画や商品作物の栽培計画	
	電力・エネルギー：電力需要予測・電力取引価格予測					
	電力：設備補修調整等		電力・エネルギー：燃料調達・輸送計画			
日射量 風速	電力・エネルギー：再エネ発電量予測					

これまでのニーズ調査から 主な結果一覧

要素	2,3日前	週間	2週間先	1か月先	半年～3か月先
大雨 大雪	<p>建設：現場作業組み換えの参考</p> <p>家電小売：店舗営業の判断</p> <p>電力・エネルギー：揚水発電運用調整、水系運用、設備被害予測及び電力会社間の応援調整</p>	<p>道路：除排雪の重機・運搬手配</p> <p>家電小売：配送・設置作業への注意喚起</p> <p>飲料製造：輸送・配送計画</p>			<p>保険金融：商品設計への参考</p> <p>農業：国の備蓄計画や商品作物の栽培計画</p>
少雨				<p>農業：農業用水の渇水対策</p>	
暴風 高波 台風	<p>建設：退避判断・海上工事調整等</p> <p>飲料製造：海上輸送計画</p> <p>電力・エネルギー：設備被害予測及び電力会社間の応援調整、燃料輸送計画調整</p>				

気象庁業務評価室によるアンケート調査から

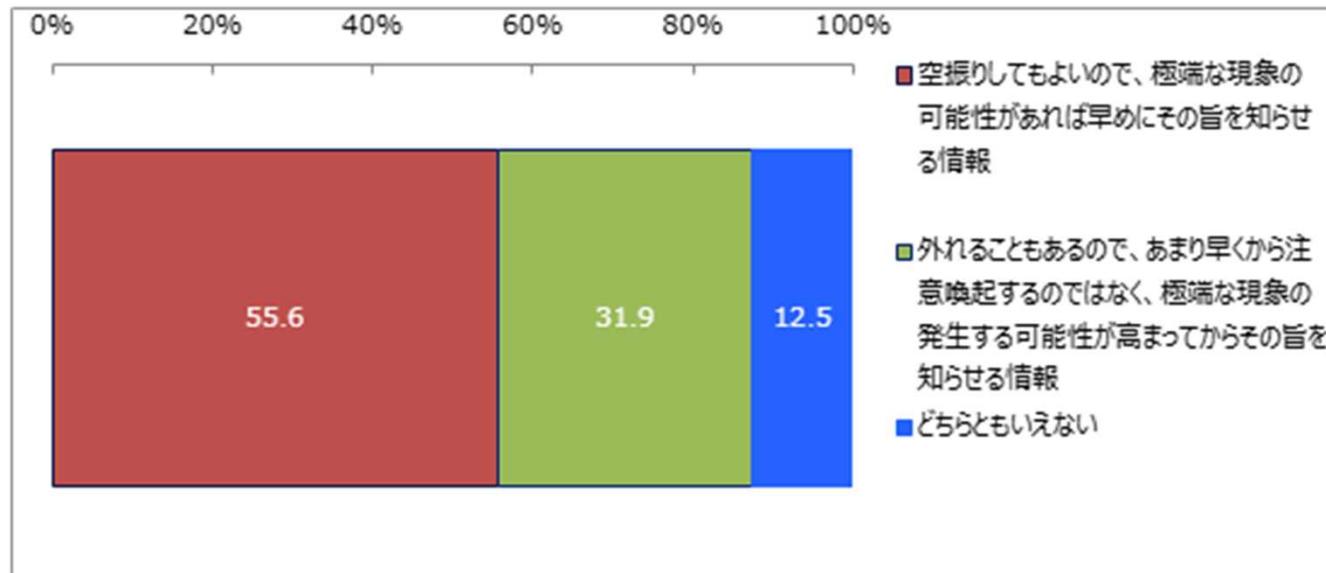
気象庁業務評価室によるアンケート調査から

- 1週間から2週間程度先に猛暑や暴風等の極端な現象が発生する可能性の情報については、「空振りしてもよいので、極端な現象の可能性があれば早めにその旨を知らせる情報」を利用したいという意見が55.6%と多くなっている。

Q25.気象の予測では、時間的に先(未来)の予測ほど精度が低くなる。もし1週間から2週間程度先に猛暑や暴風等の極端な現象が発生する可能性の予報が出されるとしたら、次の1～2に示す情報のどちらが利用しやすいか？

回答数1453

		割合 (%)
1	空振りしてもよいので、極端な現象の可能性があれば早めにその旨を知らせる情報	55.6
2	外れることもあるので、あまり早くから注意喚起するのではなく、極端な現象の発生する可能性が高まってからその旨を知らせる情報	31.9
3	どちらともいえない	12.5



気象庁業務評価室によるアンケート調査から

- 季節外れの高温、低温や大雨等の顕著現象に関する情報を利用したいと考える利用者が多い。
- 時間スケールや空間スケールのより細かい情報が求められている。

Q23. 将来新たに猛暑や暴風等の極端な現象が発生する可能性について、以下の1～9に示すような情報ができたとしたら、どれを利用したいか？（複数回答）

回答数2000

		全体	うち早天利用者※1	うち早天未利用者※2
		割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)
1	2週間程度先までの、季節外れの高温・低温の可能性、熱中症の危険性のあるような猛暑になる可能性	46.7	64.7	29.1
2	2週間程度先までの、大雨、大雪、暴風の可能性	49.3	64.9	34.0
3	1か月予報、3か月予報における、季節外れの極端な高温・低温の可能性、猛暑日や熱帯夜の日数が平年を上回る(下回る)可能性	22.4	35.2	9.9
4	より長期（6か月以上先）の予報	6.6	10.3	2.9
5	年間の台風の発生数・接近数が平年を上回る（下回る）可能性	8.9	14.6	3.3
6	より「時間単位（スケール）」の細かい予報（例：2週間気温予報において、5日間平均気温→日々の気温を予報するなど）	19.4	26.1	12.9
7	より空間的に細かい予報（例：関東甲信地方などの広い地域→県別に予報する等）	19.7	26.4	13.1
8	確率を用いない断定的な予報（例：向こう1か月の気温が高くなる確率は50%→向こう1か月の気温は高いと予報する等）	5.9	8.8	3.1
9	階級を用いない定量的な予報（例：高い、平年並、低い→平年より〇度高いと予報する等）	5.1	7.1	3.2
10	特にない	27.4	5.8	48.5

早期天候情報活用有無によるQ23のクロス集計

※1 早期天候情報を何らかの目的で利用している

※2 利用していない